

Economic Indicators

発表日: 2022年11月17日(木)

貿易統計(2022年10月)

～輸出の停滞感が強く、大幅な貿易赤字が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU		アジア	
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
21年	1月	▲ 3,707	5,638	6.4	▲ 8.9	5.5	▲ 8.7	▲ 4.1	18.6	▲ 4.0	▲ 10.4	▲ 11.2	▲ 2.6
	2月	1,673	▲ 640	▲ 4.5	12.7	▲ 4.2	▲ 16.4	▲ 6.6	0.1	22.0	▲ 7.9	1.5	44.1
	3月	6,098	2,146	16.1	6.5	12.9	3.9	7.6	20.9	3.8	▲ 0.5	9.3	8.7
	4月	2,179	75	38.0	13.2	28.7	37.8	30.8	23.3	1.0	▲ 4.8	5.2	4.3
	5月	▲ 2,179	348	49.6	28.1	38.5	77.6	58.7	21.6	6.8	5.0	23.2	7.1
	6月	3,612	▲ 1,691	48.6	32.9	37.3	79.7	43.3	26.2	8.2	9.0	26.9	8.8
	7月	4,284	▲ 533	37.0	28.2	25.2	19.4	38.4	20.4	1.9	2.1	▲ 0.6	4.6
	8月	▲ 6,634	▲ 2,959	26.2	44.9	13.7	13.2	29.2	11.0	14.4	12.8	28.1	13.2
	9月	▲ 6,489	▲ 6,331	13.0	38.7	3.3	▲ 9.8	15.3	8.9	7.4	17.0	6.1	6.7
	10月	▲ 907	▲ 3,631	9.4	27.1	▲ 3.1	▲ 8.2	5.2	▲ 0.1	▲ 3.0	2.0	2.3	▲ 4.3
	11月	▲ 9,736	▲ 5,032	20.5	44.1	4.2	▲ 2.8	10.8	5.4	6.0	17.2	24.2	2.2
	12月	▲ 6,031	▲ 4,652	17.5	41.4	1.6	6.7	3.4	▲ 0.5	0.9	8.7	5.1	0.9
22年	1月	▲ 21,994	▲ 9,114	9.6	38.7	▲ 4.1	▲ 1.0	9.7	▲ 10.5	4.8	4.7	20.9	3.9
	2月	▲ 6,772	▲ 10,092	19.1	34.0	2.8	5.0	2.1	6.1	▲ 0.8	6.1	12.8	▲ 5.4
	3月	▲ 4,240	▲ 9,962	14.7	31.3	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.1	2.7	▲ 0.3
	4月	▲ 8,538	▲ 15,578	12.5	28.3	▲ 4.5	7.9	6.7	▲ 8.1	▲ 8.9	▲ 10.1	5.1	▲ 15.6
	5月	▲ 23,906	▲ 19,060	15.8	48.8	▲ 3.5	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 4.2	4.6	▲ 1.7	6.4	3.1
	6月	▲ 14,042	▲ 19,539	19.3	46.0	▲ 1.6	▲ 1.7	6.7	▲ 2.5	1.3	▲ 1.7	▲ 6.5	2.0
	7月	▲ 14,449	▲ 21,480	19.0	47.3	▲ 1.9	▲ 5.6	17.3	▲ 2.0	2.2	17.5	▲ 4.0	2.2
	8月	▲ 28,248	▲ 23,634	22.0	49.8	▲ 1.2	10.4	▲ 1.5	▲ 3.9	2.7	3.9	▲ 8.4	4.1
	9月	▲ 20,943	▲ 20,368	28.9	45.7	3.8	18.3	11.2	▲ 2.5	▲ 1.6	1.8	5.8	▲ 0.1
	10月	▲ 21,623	▲ 22,992	25.3	53.5	▲ 0.4	4.7	9.3	▲ 6.1	5.6	4.9	22.9	6.0

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○輸出の停滞感が強く、大幅な貿易赤字が続く

財務省より発表された10月の貿易統計では、輸出金額が前年比+25.3%（事前予想：+29.1%）、輸入金額が同+53.5%（事前予想：+50.2%）、貿易収支は▲21,623億円（事前予想：▲16,880億円）の赤字となった。輸出が、事前予想に反して前月から伸び幅を縮小させた一方で、資源高と円安によって輸入金額の大幅な伸びが続き、事前予想を大幅に下回る貿易赤字となった。季節調整値で見ても貿易赤字は▲22,992億円となり、貿易赤字の拡大になかなか歯止めがかからない。

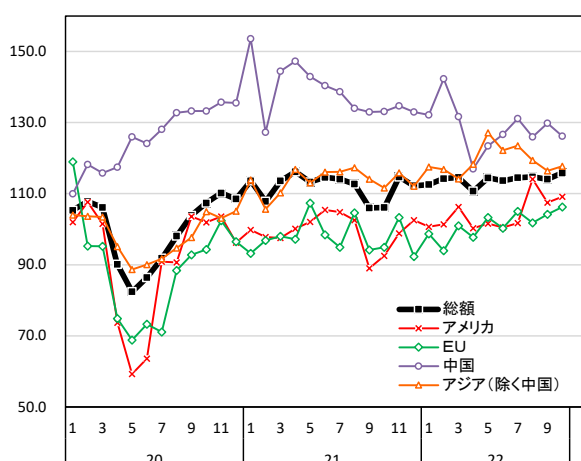
物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）は、前月比+1.6%となった（実質化と季節調整は第一生命経済研究所）。前月比では2カ月ぶりの増加となったが、小刻みな動きが続いており輸出の停滞感は強い。米国向けや欧州向けは、足元では緩やかな増加傾向を崩しておらず、予想より底堅い印象。一方、中国のロックダウン解除後もアジア向けは低迷した状態が続いており、輸出全体の足を引っ張っている。欧米諸国についても急ピッチな金融引き締めによる景気悪化が懸念される中で、今後輸出は下振れる可能性が高い。

○今後の輸出は減少する可能性が高い

国・地域別に見ると、米国向けが前月比+1.6%、欧州向けが同+2.0%、アジア向けが同▲0.3%、アジア向けのうち中国向けが同▲2.8%となった。米国向けや欧州向けは、7-9月期に自動車輸出の回復が牽引して対前期比で高い伸びになった後、10月も7-9月平均を上回る伸びとなり、均せば緩やかな増加傾向を維持している。一般機械や電気機器が、予想より底堅く推移していることが輸出を支えている。もっとも、主力である自動車輸出は、物流の改善で7月に急加速したもののその後は伸び悩むなど、均せば横ばい程度の動きが続いており停滞感は依然強い。

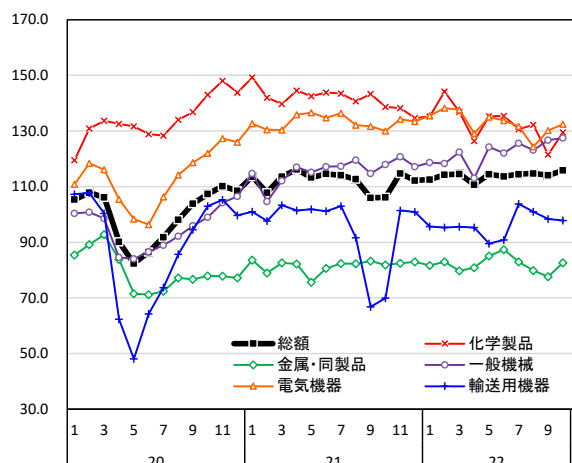
また、中国向けはロックダウン解除後も伸び悩みが続いている。厳格なゼロ・コロナ政策の影響が残存する中で、中国の影響力が強いASEANも3カ月連続の減少となっており、アジア向けは低迷した状態が続いている。アジア向けが減少傾向を辿る中で、今後は欧米諸国の景気悪化が明確化していくことで、輸出は減少傾向に向かう可能性が高いだろう。

地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(出所) 財務省 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。